

聖書宣教会通信

〒205-0017 東京都羽村市羽西2-9-3 Tel 042(554)1710 Fax 042(554)5562 振替・00150-6-34971

巻頭言

「みことばを担う者たち」

聖書神学舎教師 久利英二
鶴川福音教会牧師



「わたしをためしてみよ」(マラキ)。ン?! 挑戦? 試験? …?。このみことばを今年の卒論のテーマとした神学生がいます。卒論に限らず神学生たちは皆みことばを担っています。どういうことなのでしょう。

関連聖句には反対に「主を試みてはならない」(申命記)があり、逆に神が「銀を精錬するように、私たちが練られました」(詩篇66篇)とか、「私を調べ、私を試み…ためしてください」(26篇)もあります。また、愛しているひとり子を殺し、焼き、灰となるまでその前で祈れ! という創世記22章の話の冒頭では、「神はアブラハムを試練に会わせられた」と説明されています。この試練は神がアブラハムの信仰を知るためとか、アブラハムが確信を持つためとも考えられています。更に、アマレク人聖絶命令を受けたサウルは、聞き従うことの意味をめぐって—はっきり書いてありませんが—明らかに神から試みられたと思われま(1サムエル15章)。

このように一つのみことばは、精錬、試練、ためす、調べる、知る、確信、等々多様な意味の広がりを持っています。これらのことばをここでは「試み」という一般的な広い意味のことばで代表させて使いたいと思います。「試み」なるものは神と人を扱う聖書全体のテーマであり、信仰者はこの試みといつもぶつかるのです。信仰者は神とのつながり—愛、義、聖、信頼、忠実、語りかけ、応答といった人格的な結び付きで生きています。信仰者は絶えず、神が何を言われるのか、どう思っておられるのか、どう応答したら良いかを意識して生きています。神は「…するに時があり」「神のなさることは、すべて時になんて美しい」(伝道者3章)と言われ、日常的な出来事をすべて知り支配しておられます。試みの中で苦しむ者は思わず「どうしてこれが美しいのか?」と叫びます。交わり

を求められる神は人がどう反応し、動くかをじっと見つめておられます。信仰者が生きていることすべてが神による試みなのです。

その試みの中で最も大切なことは、みことばをどう理解し生きるか、です。たとえばアブラハムが苦しみつつ服従して行く心の内について、サウルを取り扱われた神について、選りから壮絶な戦死に至るまでのサウルの信仰生涯について、どのように理解するのか。これは試みなのです。あるいは、これらの話は、数千年昔の古代人は人間性も宗教も未熟であったから、そんな狂信的なこともあり得たのだと考えるのか、荒唐無稽な宗教説話として棄てるか、今日の神話見直しの動きに合わせて再考するか、等々。要するに神の語りかけを否定して神から離れて行こうとするのか。それとも、神により近くありたいと願って、読み、学び、祈り、考え、理解しようとするのか、神が示しておられる救いに至るのか、与えられた救いをどう具現するのか、試みられているのです。

聖書神学舎は建学以来、みことばそのものをどう理解し生きるかを中心に据えてきました。それは聖書神学舎がみことばの理解をめぐって、試みを受け、試みを担ってきたことを意味します。みことばは人に衝撃を与え、疑問にさ迷わせ、人を倒し、立たせますが、ついに神の救いの確信と平安に導くはずで、それを信じて、刻々移り行く罪人の営みの現実をしっかりと見据えた上で、みことばにかかわる試みを真に担い、伝える者が起こされることを切に願っています。

主に愛された主のしもべ遠藤嘉信先生は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) を患っていましたが、6月23日(土)夜9時5分、平安のうちに47年の地上の生涯を終えられました。日本の教会の為にこれからますます用いられて行くはずの先生でした。聖書神学舎にとっては、ここ数年の出来事の中で、これからの歩みを思う時に、本当に大きな大きな痛手です。1年余り前から、うめきともつぶやきとも言えないことばで、主の御前に祈って来ました。しかし、主は先生をみもとにお召しになりました。24日の和泉福音教会での前夜式、25日の聖書宣教会に会場を移しての告別式は主の恵みと慰めに満ちあふれた時でした。

同窓生の中で主のみもとに召された方々がおられます。働きを終えて御国に凱旋されたとは言え、早すぎます。主よ。働き人がますます必要とされている時に、あちこちに無牧の教会がふえている時に、主よ、日本の教会を、宣教会をあわれんでくださいと祈らざるを得ません。

そのような中でしたが、3年ぶりに開かれた

夏期研修講座と教会音楽夏期講習会を感謝のうちに終えることが出来たのは、本当に大きな恵みでした。共に30数名の参加者を与えられて開催できたこと自体が大いなる励ましでした。「モリヤ問題」によって問われてきた宣教会の内部的な問題に向き合い、2008年3月末を目標として今なお財政的再建努力を続けている中で、ようやく希望を持って将来に目を向けて歩み始めることを主が許してくださったように思います。そのような中、7月初めに、英国からボウカム先生が来て特別の講義をしてくださったこともエクストラの恵みでした。(別記の遠藤勝信先生による報告をご覧ください。)

三か所に遣わされて行ったキャラバン伝道も素晴らしい主の恵みの時でした。(別記の報告をご覧ください。) 来年3月に卒業・修了を控えている研修生9名の歩みの為にお祈りくださいれば感謝です。カリキュラムを改訂する中で、新しい教師たちが必要とされています。主が相應しい若い人材を備えてくださるように、お祈りください。感謝と祈りをもって。

オルガンだより

教会音楽科教師 岳藤照子

3年ぶりに開かれた教会音楽夏期講習会は祝福の中に終了しました。教会音楽科教師にとっても、一致した教会音楽の理念を再確認する良い時となりました。さて、講習会でも大いに用いられたチャペルのオルガンについて書かせて頂きます。

1990年4月、多くの方々の尊い祈りと捧げ物によって第1次工事が終了したのでした。当時20ストップのスタートでしたが、初めて響く生のパイプの音に心震える感動を覚えた事を思い出します。神様が創造された素材を使って造りあげた楽器で、主を讃える幸いを感謝せずにおれません。この時以来、毎日のチャペルの礼拝、教会音楽の夕べ、卒業演奏会、音楽授業と練習等々に用いられて来ました。オルガン協力会による第一回聖書宣教会パイプオルガン演奏会が1991年1月26日に開かれました。今年12月1日に予定されている演奏会は記念すべ

き第30回を迎える事になります。

オルガンの中央にフロントパイプとしてオーボエ管が並んでいます。当時様々な事情で現在の管をいれましたが、これを見直す必要に迫られ、祈ってまいりました。この度、指定献金が与えられ、新しい管と取り替えて改善をはかることが可能になりました。配置も検討されて、第三鍵盤に移動します。今後全鍵盤オーバーホール、不備な部分等の調整改良の中期計画を立てています。皆様のお祈りの端に加えて頂ければ幸いです。私達も11月の新オーボエ管の音を楽しみにしていますが、これを奏する者たちにとって、言葉を大切に弾くという課題が課せられています。

宣教会の為に祈りして下さる皆様、また、オルガン協力会(オルガン建造と同時に舟喜順一先生が立ち上げて下さいました)の皆様へ感謝しています。

遠藤嘉信先生の思い出

津村 俊夫

(1) 遠藤嘉信先生との最初の接点は、今から25年以上前になります。1980年頃、先生から、大学卒業後の進路について、私が教えていました大学院で学ぶか神学校に来るかで相談の手紙をいただきました。要するに神様の召しがどこにあるかでしょうね、と返事をしたことを思い出します。

(2) 主の召しを確認して聖書神学舎に入学した先生は、関心を深めてきた旧約聖書と言語学の学びを生かして、卒業論文のテーマに創世記38章の文学的挿入を選びました。それは私自身が関心のあったもので大変嬉しく思いました。

(3) 先生は卒業後、クラスメートであった芳子夫人と結婚することになり、私も古河の母教会での結婚式に参列しました。教師になられてからですが、「旧約研究のクラス、家内の方がいつも成績が1点上なんだよねー。どこに判断基準があったのかねー。」と、ニコニコしながらよくほやかれました。2人のお子さんが与えられ、「恵理がね、道信がね」とよく話題にされていました。夫として、父親としての先生の一端を垣間見る時でした。

(4) ボストン郊外のゴードンコンウェル神学校に留学中の遠藤先生を訪ねた時、スミック教授の授業を一緒に受けたことがありました。自分の教え子が、留学先の先生に認められていることを直に知ったのは大きな喜びでした。

(5) 先生が英国のウェンナム教授に師事していた頃、先生の車でマンチェスター大学でのウガリト学会に出席しました。帰り道、激しい雨が降る中、走行中にワイパーが動かなくなりました。「先生。窓を開けて動かしてくれない？」と頼まれ、手動式で無事に帰宅することが出来ました。そのことも今は楽しい思い出です。1996年に先生の博士論文「ヨセフ物語の談話構造と動詞」がオランダで出版され、翌年、専門書にいち早く紹介されたの

は私にとっても嬉しいことでした。

(6) 1994年以来、牧会(新座聖書教会と和泉福音教会)をしながら、神学舎の教師として、旧約各書(レビ記)、旧約釈義(ヨナ書)、旧約原典講読(創世記)、説教演習(旧約釈義)、論文指導等を担当されました。先生の情熱的な授業で学生たちは大いに目を開かれました。教師会では積極的な発言をし、聖書の権威を大切にする事の重要性を特に主張しておられました。

(7) 先生は、講解説教に力を注がれました。ヨナ、ヨセフ、アブラハム、ヤコブ、エステル、創世記に関する説教集が出版されています。空想話に逸れて行くこの時代に「釈義から説教へ」という聖書神学舎が目指してきた教育を身をもって証しされた方です。

(8) 聖書宣教会の大きな試みの2年間、先生は責任役員として、しばらくの間は代表役員代務者として大きな責任を担って下さいました。力を出しきって宣教会を愛した教師であり、責任役員でした。

(9) 私は教師会議長として、ALSの遠藤先生との特別な関わりを与えられました。また、清瀬の救世軍病院では、先生とご家族のために、5月13日から先週まで病棟のチャペルで、岩井、斉藤両先生と共に、礼拝説教を交代で担当させていただきました。極めて厳粛な、恵みのひとときでした。

(10) 最後に、先生と私は趣味も同じで、『先生が買うものはすぐ壊れてしまうんだから!』と、互いに自慢したり批判したりしたことも楽しい思い出です。教え子であり、弟子であり、同僚であり、戦友であり、尊敬する牧師であった遠藤嘉信先生は、一足先に、信仰の馳せ場を走りきって御国に凱旋されました。

ご遺族の上に主の慰めが豊かにあるようにお祈りいたします。(6.25告別式にて)

2007年夏期伝道実習から

今年度は「福音に仕える～キリストのからだを建て上げるために～」(エペソ3:6,7)というテーマのもと、3教会に10名の研修生が遣わされました。

聖書宣教会の学びの中では、みことばに忠実に仕えることを教えられます。また、卒業までに、みことばに仕える者としての召しを確かなものとするように勧められます。ですから研修生は、みことばを語ることに関して比較的高い意識を持っていますが、さらに実際の教会には、みことばを語るだけでない、さまざまな働きがあります。それら全てが、「教会を建て上げる」ために、忠実になされるべき働きであることを覚えつつ、都心から離れた教会で、貴重な経験を得ることができました。

キャラバン委員長 神田唯志

青森シオンキリスト教会 (青森)

日程：7/4～10

東沙織・芳田秀貴・滝野賀代・森下信義

今回のキャラバンは、教会でもたれている集会での奉仕が中心でした。待望園(身体障害者通所授産施設)での祈祷会、教会員の方が経営する喫茶店でのミルトスの会、子ども伝道集会、地域教会の青年たちの集まり、そして主日礼拝



において、賛美や証し、みことばの取次ぎを担わせていただきました。待望園やミルトスの会では、教会員のつながりによって多くの未信者の方が来られており、みことばが語られていることの尊さを覚えさせられました。子ども伝道集会では、前日、近所の小学校でトラクトを配り、20名程度の子もたちが教会に招かれて、歌やスキットを通して福音の種が蒔かれました。青年たちの集まりでは、一人ひとりが互いを励まし合い、キリストに堅く立っている姿がとても印象的でした。青森の地において、みことばによって、主の民自身の内側が回復される中で、外側に向かって働きを進められる主の業(詩篇126篇)を見せていただきました。

三浦聖書教会 (神奈川)

日程：7/23～29

竹元献・正村献三・松田聖一

私たちは、三浦半島の先端である三崎口の三浦聖書教会にて奉仕させていただきました。奉仕内容は、祈祷会での奨励、各集会での証し、路傍伝道、礼拝での奨励、そして主日午後の伝道集会(ふくいんアワー)の企画・実行およびトラクト配布でした。教会に集う姉妹方の献身的なご奉仕と、田辺先生ご一家の温かい励まし、またチーム内における主にある交わりに支えられ、私たちはときに肉体的な疲れを覚えながらも、喜びと感謝のうちに奉仕を終えることが出来ました。特に最終日の伝道集会においては、数名の求道者の方々と交えて、賛美や福音スキット(寸劇)、伝道メッセージ、そして食卓の会話を通して、イエス・キリストの福音を共に分かち合うことができました。

何よりも私たちにとって、牧会の生の現場を見せて頂いたことが何よりも大きな収穫でした。多くの祈りに支えられて、福音に仕えることの厳しさと楽しさを学ぶことが出来たことを主に感謝しています。



岸和田東聖書教会（大阪）

日程：7/23~30

山口尚美・神田唯志・李賢娥^{いひよな}

熱い祈りが込められた夏。岸和田東聖書教会では1週間、ゴスペルウィークという伝道週を設け、私たちを喜んで迎えてくださった。

前半では周辺区域へのトラクト配布。暑さの中、教会の皆さんと共に心地よい汗を流した。町を歩き交う人々にはどこか親しみを感じ、主の救いを祈らされた。トラクト配布に続き、後半は集会へと流れは変わる。新たな緊張感。祈祷会、区域伝道会、映画会、ユースバイブルクラブ、伝道礼拝、子ども夕涼み会など、すでに教会で準備されてきた各集会で、私たちもメッセージや証し、賛美の奉仕をさせていただいた。

チームのメンバーが一様に感じたのは、これ



まで多くの祈りが積まれてきたということ。私たちが祈られていたということ。祈りを聞かれる神がここにおられるのだということ。キャラバンの祈りは今も続いている。宣教の主がこれからも岸和田の人々を愛し、祝して下さいますように…

聖書宣教会の夏の歩みから

リチャード・ボウカム博士による 特別講演

教務主任 遠藤勝信

国際聖書フォーラム（日本聖書協会主催）のために来日されたボウカム先生が、聖書宣教会において、7月3日の午前と午後に特別講義をしてくださいました。研修生に加え、卒業生も多数出席されました。

講義では、新約学において定説になりつつある福音書の読み方、所謂「様式史批評」の問題点が取り上げられました。その立場に立つ研究者らの多くは、福音書は、イエスについて何かを知るためには基本的にはあまり信頼できないという前提に立ちます。ボウカム先生は、その前提に挑戦し、「それらは、あらゆる点から観て間違っている」と反論します。その誤謬は何処にあり、またそれは何処から来ているのかを、綿密な歴史研究と、深い洞察と、ユニークな着想によって明確に論じつつ、福音書の新たな読み方、即ち「目撃証言としての福音書」という読み方の提案を紹介されました。

講義の内容は、最近ご出版の、Jesus and Eyewitnesses (Eerdmans, 2006) をご覧ください。

聖書神学舎夏期研修講座に参加して

清瀬福音自由教会牧師 岩井基雄

私にとっては卒業後初めて参加する研修講座でした。「積義から説教へ」と使命の原点へと戻される研修は、再献身を問われる時でした。鞭木先生による2回の基調講演では、「みことば」とりつぐ者としての自覚と方向性、また陥りやすい危険性について鋭いチャレンジと指摘がありました。旧約2つ、新約3つのクラスに分かれての6回の講義と演習は、原語の豊かさを再確認し、みことばの深みを味わう恵みのときでした。神学生時代の格闘を思い出すとともに、自らの学びの稚拙さを痛感しました。「原語に触れるとき謙遜にさせられる」との言葉、「常に神学するように」とのチャレンジも心に留まっています。早朝の鶯の聲が、静まりとみことばの思い巡らしの重要性を教えてくださいました。

生活も学びも共にし、共通の使命を再確認する場合は、私たち牧師にどうしても必要ではないかと思えます。聖書宣教会の新しい歩みが、主の教会の祝福のためになお用いられますよう続けて祈ります。全てを主に感謝して。

主のあわれみに心から感謝して

教会音楽科教師 飯島千雍子

7月26日(木)～28日(土)、第23回教会音楽夏期講習会が開催され、約20名の新しい参加者を迎え、30数名(部分参加者含む)の兄弟姉妹と充実した学びのときを持ちました。

「みことばと賛美」の主題のもと、聖なる神を礼拝し賛美することについて、その賛美の奉仕に与る恵みについて、みことばからご一緒に学ばせていただき、主のあわれみを心に深く覚ええました。

開会礼拝(エズラ3章、「喜びの歌声」、講義Ⅰ(「教会音楽の基本的理解」と題して岳藤照子先生が、キリストの尊い贖いの故に神を賛美出来るとは何と幸いな、祝福に満ちたことが懇ろに語っていただきました)、講義Ⅱ(ヘブル語から説き明かされた詩篇23篇)、講義Ⅲ(「神はどのような方か」、閉会礼拝(詩篇16篇)と、教会音楽の講義と演習、全員合唱、各分科会、教会音楽の夕べ、など盛りだくさんのプログラムでしたが、「もっと学びたい」の声も聞こえて少し安心しました。また、教会音楽科の働きについても紹介し、祈りの支援をお願いしました。

聖書宣教会のために祈ってくださる皆さまに心から感謝しています。
近況と祈りの課題をお届けします。

- とりわけ厳しい暑さの夏でしたが、この間の歩みも、主が支えてくださいました。夏の歩みからいくつかの場面を記事にご覧いただけます。あわれみと恵みに富む主に感謝しています。
- 研修生は、それぞれに夏の特別な奉仕や経験を頂戴して、一同無事に帰寮しています。とりわけ卒業予定者には、卒論・卒研の学びに取り組む貴重な時間でした。
- 教職員も、それぞれに日常とは異なる場面で夏の奉仕にあずかせていただきました。
- 9月4日に大掃除を行い、5日から授業を再開しています。
- 9月13日の教師会、14日の責任役員会、21日の評議員会と続いたあと、10月18日にはこれらの合同の懇談会が予定されています。聖書宣教会のこれからのために、主のみこころを正しくわきまえて、歩みを進めることができますようお祈りください。
- カリキュラム改訂の終盤の作業が適切になされますようお祈りください。
- 夏の終わりから秋にかけて、各地区同窓会で研修会などの活動が続きます。主の顧みと祝福をお祈りください。また、各地の同窓生の主にある働きのためにお祈りください。
- パイプオルガンの改修工事が10月末から行なわれる予定です。工事の安全と主にある調和とをお祈りください。
- 教師・講師、また職員の人的資源の必要を主が顧みてくださり、助けてくださいますように。
- 教会や地域の祈り会などから祈り課題のご請求をいただくことがあり、感謝しています。ご希望がございましたら事務局までお知らせください。

編集後記

猛暑という表現でも不十分なほどの、この夏の暑さでした。熱中症で救急搬送された方は千人単位で、死者も多数と。皆さまにはいかがお過ごしでしたか。

聖書宣教会でも、キャラバン伝道に参加した研修生や冷房の設備されていない単身寮に残ってい

る寮生のことを特に案じた夏でした。

9月の声とともに教室での学びが再開しています。主が、一人一人のうちに豊かな結実を見せてくださることを期待しています。

教会の秋の働きの上にも主の祝福を期待してお祈りします。(A)